

イヒナビ

vol.25

ihinavi

旭化成ホームズ株式会社
東京法人支店



【お盆目前！墓じまいと家じまいを考える！】

～夏休みやお盆休みに、親世帯と子世帯で話しておきたいこと～

加速する墓じまい 樹木葬など、新しい葬り方

あなたの実家、親世帯だけで住んでいませんか？

【お盆直前、親世帯と子世帯で話しておきたいこと①】

加速する墓じまい 樹木葬など、新しい葬り方



読売新聞が今年頭に全国20政令市と東京都の公営墓地（総区画数約80万）の利用状況を調査をしたところ、「墓じまい」が加速しているとのことでした。以前は抽選になる程人気だった都市部の公営墓地でも、この「墓じまい」が増えているのです。理由としては、「子供に墓参りの負担をかけたくない」「お墓の場所が遠く、お墓参りに行けない」という理由が多いそうです。

遺骨を別の場所へ移す「改葬」そして「樹木葬」

「墓じまい」をした後は、遺骨は別のお墓に移されたり、お墓の管理や供養をお寺や霊園が行ってくれる「永代供養」にしたり、故人が好きだった海や山などの自然に撒く「散骨」、「手元供養」などの選択肢から選ばれることが多いようです。

中でも永代供養で「樹木葬」を選ばれる方も増えています。「樹木葬」は「永代供養」の一つで、墓石を用意するのではなく、霊園などの一区画に樹木や草花を墓標とするものです。



日本の文化、お盆のお墓参りは大切な風習



「墓じまい」が増えていますが、日本には、先祖を敬い、家族の絆を再確認する美しい風習があります。それが「お盆」です。

お盆は、ご先祖様の霊がこの世に帰ってくるとされ、その魂を迎え、供養する期間です。ご先祖様に感謝し、今の自分たちがあることを改めて感じる、日本人としての心を思い出す季節です。

「盆踊り」も、先祖の霊を供養するために踊るものです。この機会に、ぜひ親世帯、子世帯でお墓について、お互いにストレスのない選択を話し合ってみるのも良いかもしれませんね。

【お盆直前、親世帯と子世帯で話しておきたいこと②】

あなたの実家、 親世帯だけで住んでいませんか？

「墓じまい」に続き「家じまい」も加速しています。団塊世代が75歳以上となり超高齢化社会を迎えます。これを2025年問題と呼んでいます。2025年問題では、高齢者が医療施設や介護が必要になり、施設などへ移転し、空き家が増えてしまう、、、とも言われています。親世帯が現在は後期高齢者でなくても、近い将来、親世帯が子供と暮らしていた一軒家に両親二人だけ、もしくは単身で暮らすことになるかもしれません。そうすると、実家が遠方の場合、こまめに体調面でのサポートが難しく、さらに最近では防犯面での心配も出てきます。

お盆休み、家のことを話してみませんか？将来の収入に繋がる可能性も



子供達が巣立ち、広い一軒家に親世帯だけで住んでいる場合、「その家をどうするか？」ということ、この機会に話してみてもいいでしょうか？

もしかすると、地代が高騰していて、売却をしてコンパクトなマンションへ移転したとしても、手元に資金が残る可能性もあります。しかし、親世代が他界した場合は、資産は相続の対象にもなるので、ある程度の相続税を支払わなくては行けません。

親世帯や子世帯にもメリットがある 二世帯住宅で相続税も軽減できます！

様々なメリットがあるということで人気の二世帯住宅なら、相続税を軽減することができます。ただし、軽減対象にならない場合もあるので、まずは私ども東京法人支店の担当者へご相談ください。敷地や家族構成、今度のライフスタイルを考えて、どうすればメリットがある二世帯住宅になるか？ご提案いたします。



HEBEL HAUSの二世帯住宅

今の時代だからこそ、二世帯住宅が選ばれています

二世帯同居 4つのメリット

経済的有利

- 建設時 親の土地を使えば土地購入が不要
- 生活期 共用部分が増えれば光熱費や食費が減る
- 相続時 同居なら相続税上の土地評価が 1/5 になる

高齢期協力

- 建設時 会話量活動量増加、孫を通じての社会参加で健康維持
- フレイル～要介護期 病院送迎、介護サービスのマネジメント
- 相続時 親世帯の負担を減らす家事協力、調理洗濯等の分担

育児協力

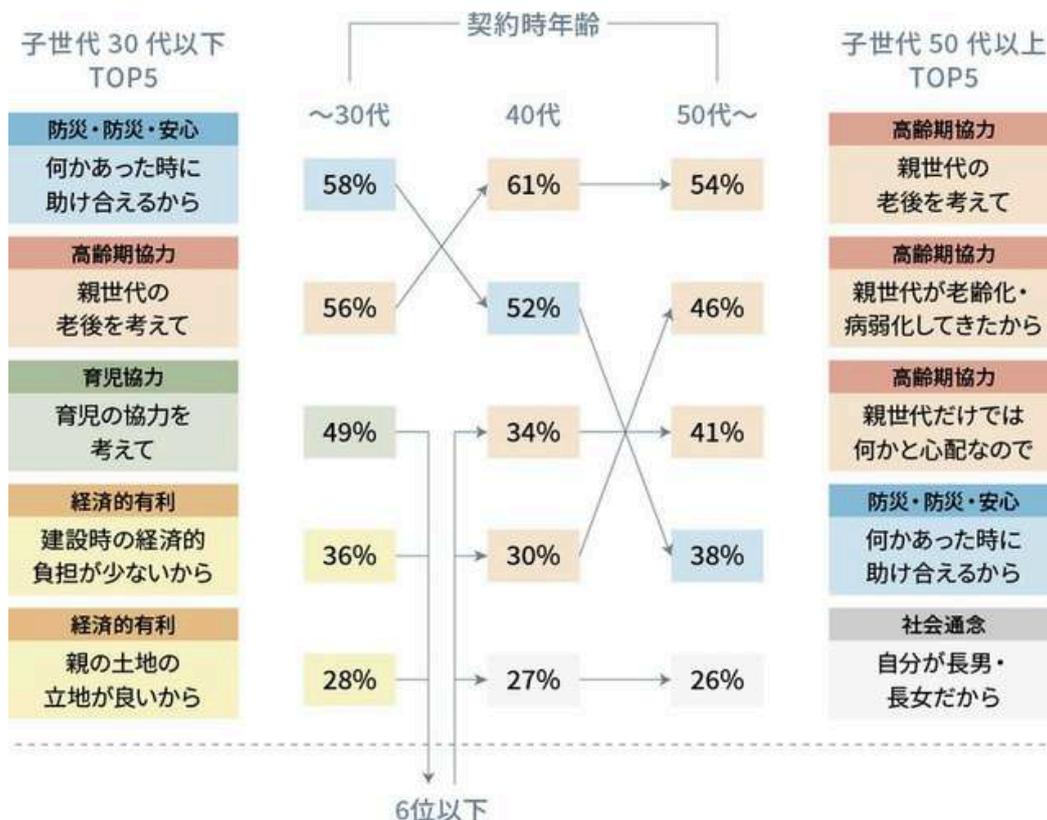
- 幼児期 保育園のお迎え、病気の時のサポート
- 小中高 帰宅時在宅、お稽古事送迎、食事の世話
- 共通 子世帯の負担を減らす家事協力、調理洗濯等の分担

防災・防犯・安心

- 災害 非常時に助けあえる
- 防犯 空き巣リスク減、訪問販売や詐欺の不安減
- 安心 近いので様子がわかる、いつでも協力できる

年代別同居理由

同居の理由は子世代の年齢で異なります。それぞれの世代に応じて二世帯の魅力を感じる点に変化していくようです。



HEBEL HAUSの二世帯住宅

今の時代だからこそ、二世帯住宅が選ばれています

くっきりとセパレートにした二世帯住宅、しっかりシェアスペースを作る二世帯住宅、それぞれ住まれる人の生活環境などに応じて、プランニングをすることができます。

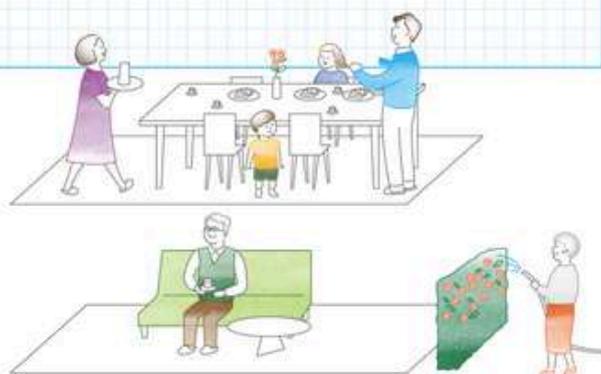
Method 1



ナイスセパレーション

二世帯の生活空間を上手に分けると 家族の気持ちがあっという間に繋がる

親世帯・子世帯の関係性に応じて日常生活を適切に分けること（実際の生活面でも、また相手世帯の生活を尊重するという意識面でも）で、両世帯の良好な関係維持と同居のメリットにつながります。



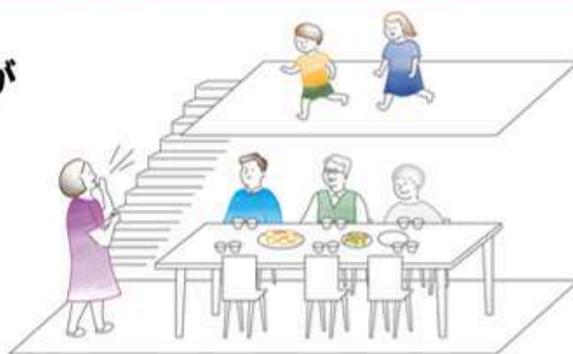
Method 2



ナイスシェアリング

見守り合い、楽しい時間の分かち合いが 家族みんなの幸せを育てる

生活空間、家事や育児、団らんの時間…。家族みんなで何をシェアすると、幸せな日々が実現できるかを考えてみましょう。二世帯住宅研究所では、多様なシェアのスタイルに合わせたさまざまな二世帯住宅のアイデアをご提案しています。



くっきりとセパレートにした二世帯住宅、しっかりシェアスペースを作る二世帯住宅、それぞれ住まれる人の生活環境などに応じて、プランニングをすることができます。

<編集後記>

今号では、「墓じまい」や「家じまい」といった、人生の節目に関わるテーマを取り上げました。

これらは一見、重く感じられる話題かもしれませんが、家族の未来を見据えて語り合ううえで、とても大切なことだと私たちは考えています。

お盆という、家族が久しぶりに顔を合わせる時期だからこそ、親世帯と子世帯がゆっくりと話し合う良いきっかけになります。ご先祖さまを敬いながら、これからの暮らしについて語り合う時間を持っていただけたらと思います。

また、そうした対話の中で「二世帯住宅」という選択肢に自然と目が向くこともあるかもしれません。お互いのライフスタイルや価値観を尊重しながら、距離感と安心感の両立を叶える住まい。これからの時代にふさわしい家族のかたちとして、改めてその魅力を見直す機会となれば幸いです。

そして「二世帯住宅」のご相談や相続のご相談に関しても私たちは提携企業様のお力になれるよう、ご相談を承っております。

お気軽にご相談くださいませ。